

文化財学習会

ふるさと探訪

テーマ 県立ミュージアムと
高松城東の丸遺構を観る

講師 廣瀬和孝（高松市文化財保護協会顧問）
香川県立ミュージアム職員

平成21年9月27日（日）

共催 高松市歴史民俗協会
高松市教育委員会

1 香川県立ミュージアム

香川県立ミュージアムはJR高松駅から東へ900m、コトデン高松築港駅から東に800mと交通に便利な場所に立地し、香川の歴史を紹介する歴史展示室（4階）のほか、空海の生涯など香川ゆかりのテーマや所蔵する美術品を展示する企画展示室（3階）があります。また、イサム・ノグチの彫刻を紹介する常設コーナー（1階）や、十二単（じゅうにひとえ）・鎧（よろい）を身に着けることができます。（無料）体験学習室もあります。

歴史博物館と美術館の機能を合わせ持ち、総合的なミュージアムとして2008年4月にリニューアルオープンしました。香川の新たな文化拠点として幅広く活動しています。



香川県立ミュージアム

2 高松城（玉藻城）の周辺

寛永19年松平頼重が常陸下館から入府し、東讃岐12万石の領主になりました。

高松城は版籍奉還までの11代228年間松平氏の居城でした。町はきれいな碁盤目で、現在の中央通りから西が侍屋敷、北は扇町から番町5丁目まで中級以下の侍屋敷がありました。重臣や高禄の武士の屋敷は外城内に、東側の外城内には町屋敷がありました。本町、磨屋町、横町、魚屋町など町人、職人町は藩とのつながりを持っていました。

明治41年（1908年）より中堀以西の広大な用地が、次第に市街化され、戦後、内堀や桜の馬場がコトデンなどの用地となり、北側一帯も海運関係、企業の社屋や倉



庫、また、海岸通りの道路となって、城域は大幅に縮小され、景観も大きく変貌しました。高松城跡は昭和30年（1955年）に国の史跡指定を受けています。現在、城郭の一角に、アルファあなぶきホール（香川県民ホール）、香川県立ミュージアムが建っています。これらの施設は、お城の石垣遺構を巧みに避けて建てられており、ひらき長檜台や残存石垣を各所に見ることができます。アルファあなぶきホールの地下には、高松城東の丸造成に関連すると思われる下層石垣が保存、展示されており、いつでも誰でも自由に見学することができます。



アルファあなぶきホール（香川県民ホール）



アルファあなぶきホール（香川県民ホール）

地下遺構

3 高松市北浜町

江戸時代の埋め立てによってできた町です。昭和5年（1930年）公有水面埋立地の町名に編入し、しもよこ下横町と北浜材木町をあわせて北浜町と改めました。港から陸揚げされた物資を入れる倉庫群や、木材の集積場となっていました。

4 北浜アリー

アリーとは路地裏、裏通りの意味です

高松港を経由する貨物の保管場所として、昭和初期に北浜町に建設された倉庫群（宇高国道フェリーの向かいの道路に直角に並ぶ4棟）を、当時の雰囲気を残しつつニューヨークの倉庫街をテーマに改装しました。

長年、風雨に耐えてきた倉庫の外装はそのままにして構造補強のみ行い、吹き抜けを生かした大きな空間に、ギャラリー、ブティック、カフェレストラン、美容院、雑貨店など9業種の店が並んでいます。中央のレンガ広場ではフリーマーケットやコンサートが開催されます。

南側に北浜NYが新しく完成し、ジーンズショップ、子供服、フラワーショップ、缶詰



バーなど8店舗で営業を開始しました。
前時代の港の雰囲気を残し、隠れ家的な魅力を持つ北浜アリーは、週末には多くの若者が集う場所になっています。



北浜アリー



NY ギャラリー

5 北浜惠美須神社

浜に住んでいた美女が姿を代えたという冠形の石をご神体に行っていると伝えられています。北浜や、北浜以南の8町から奉納された玉垣があり、本町・北浜界隈の信仰を集めていたことがわかります。

香川県神社誌に左記のような記載があります。

【惠美須神社】

祭神 事代主命 ことしろぬしのみこと 大己貴命 おおなむちのみこと

由緒 縣社石清尾八幡神社境外末社。仁和三年國守菅原道眞の創祀と傳ふ。天明六年北濱材木町年寄倉屋敷彌三郎調べの當社御由緒記（細川頼春の臣秋山土佐守泰忠の記録、一柳丹後守直重の寺社奉行所記録、御由緒記、年中行事御用帳による）によれば、仁和三年二月菅原道眞篁原庄石清尾山上に、瀬戸内海群島及び篁原庄の守護神として奉齋、天照大神、事代主神を祀り、細川頼春及び頼之當國の太守となりて崇敬厚かりしが、長宗我部氏の兵火に罹り僅にその祠のみ残りしに、生駒近規高松築城の為黒田如水と宮脇山に登りてその神祠を見、鬼門の鎮守として城の東北隅に遷座せり。寛永年中暴風ありて海中に顛落せしを、生駒高俊恐懼直ちに漁夫に命じて探索し再び奉齋せり、爾來内町（玉藻城外濠内）中の氏神として崇敬厚く、寛永十九年松平頼重太守となるに及び大にその祭事を興し、松平

頼常又二回に互りて社地六百坪を寄進せりと云ふ。

祭日 陰曆六月十日

主なる建造物 本殿 幣殿 拝殿 社務所 御手洗舎

境内坪数 三百九十五坪八勺 崇敬者人数 約七千五百人

境内神社 住吉神社（小童命 松尾神 猿田彦命 金刀比羅神）



北濱恵美須神社



北濱恵美須神社

6 町屋（加藤家住宅）

戦前の全国工場リスト『工場通覧』にも載っている加藤下駄工場の経営者宅として地元
の町屋大工によって建てられました。1階の出格子窓に町屋の特徴が、また高い2階の壁
面一杯に開けられたガラス窓や洋風建築を意識した鎧戸に、昭和初期のモダンな雰囲気が
感じられます。昭和20年の高松空襲をくぐりぬげ当時の町並みを垣間見できる建物です。



加藤家住宅



【参考文献】

『高松まちある記』

平成20年3月31日発行

高松松平藩歴史・文化探訪推進協議会

『香川県神社誌上巻』

昭和13年12月1日発行

香川県神職会

『わが町の文化財探訪』

平成19年3月31日発行

高松市文化財保護協会

『香川県立ミュージアム リーフレット』

『高松城外曲輪の町人町』 廣瀬孝和著

